

成20年からわずか3年で400人近くの活動者が減少している状況です。

これは、単にボランティア自身の高齢化が進んでいるという問題だけでなく、長年活動してきたグループの世代交代がうまくいっていない、新たなボランティアが生まれていないということに原因があるようです。

特に若年世代や中堅世代は、関心があっても仕事や家庭の都合で活動できないという状況や、長引く不況が大きく影響していることも考えられます。

おやじセミナー 「写真教室」



セカンドライフの生きがいがづくり、仲間づくりとして和気あいあいと写真について学びました

新しいカタチの ボランティア活動へ

このような状況の中、宍粟市社協が昨年8月に策定した「つながりふくしプラン」では、地域における新たな取り組みとして、ご近所ボランティア活動の推進や企業・会社等の社会貢献活動の推進、団塊世代のボランティア活動への参加促進など、新しいカタチのボランティア活動を広げるとしています。

その一つとして、平成23年度から団塊世代を対象とした「おやじセミナー」を実施しています。

これは人生経験豊富なシニア世代が、これまで培ってきた知識と経験を活かして地域活動に参加してもらおうと、団塊世代の方々が地域に出て行くきっかけづくりや仲間づくりの場として実施しているものです。

小地域を舞台にした ボランティア活動を

社協が推進してきた小地域福祉活動では、ふれあい喫茶やふれあいサロンなど、各自治会で様々な

地域福祉活動が取り組まれていいます。

その多くは、福祉委員や民生委員を中心に自治会や女性部、老人クラブ、子ども会など地域を巻き込んだボランティア活動として住民参加による運営が行われています。

少子高齢化が進む地域にあつて、これからのボランティア活動は、地域のささえあいや助け合い、そして地域でのつながりをつくる大切な活動になってきます。

特別なボランティア活動から普

段着のボランティア活動へ。難しく考えず、自分のできることで、それぞれの地域のつながりをつくる新しいカタチのボランティアをやってみませんか。これからはそんなあなたの力が必要です。

まずは、あなたの地域で取り組まれているふれあい喫茶やふれあいサロンなどに参加して、福祉活動やボランティア活動参加のきっかけにしてみてもいいかがですか。

(本部 田中祥仁)

教えて！ ボランティア

宍粟総合病院ボランティア めいちゃん



楽しく活動することが
長続きの
秘訣です！

平成22年5月から

新しいボランティア活動としてスタート！

ボランティアを始めたきっかけは「以前病院にお世話になったので」「台風災害の時にボランティアに助けてもらった」「時間を持って余してたので」など様々。

「患者さんの『ありがとう』の言葉で、ボランティアしているこっちがパワーをもらっています」と会長の釜田勇さん。

病院での活動なので難しい活動だと思われることが多いですが、メンバーは初めてボランティアをするという方が多く、特別な技術を持った方はいません。また、活動が負担にならないように、自分にできる範囲の活動を心がけています。